

## 令和2年仙台市の人口動向

人口の動向は、自然動態（出生及び死亡の動き）及び社会動態（転入及び転出の動き）によって説明されます。この特集は、令和2年1年間の仙台市の人口動向について、社会動態を中心に報告するものです。

- ・ 平成24年7月9日に改正住民基本台帳法が施行され、外国人住民にも住民票を作成することになりました。これに伴い、住民基本台帳に基づく同日以降の集計については、外国人住民人口を含めています。それより前の集計については、改正前住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく人口から集計しています。
- ・ そのため、2～5ページの「登録人口による人口動向」及び統計表第1表は、平成23年以前、平成24年、平成25年以降を直接比較できませんので、ご留意下さい。

### 利用上の注意

- ・ 本報告書で用いた地域区分は次のとおりです。

仙台都市圏内の他市町村：（東部ブロック）塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町  
 （北部ブロック）富谷市、大和町、大郷町、大衡村  
 （南部ブロック）名取市、岩沼市、亶理町、山元町

北海道地方：北海道

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県  
 東北5県は、東北地方から宮城県を除いた地域

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿地方：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※なお、本文中にある「その他の地方」は、特にことわりのない場合、上記のうち東北地方と東京圏を除いた地域をいいます。

※平成28年10月10日に、「富谷町」は市制施行により「富谷市」となりました。

### 用語の説明

- ・ 登録人口＝住民基本台帳人口（日本人住民＋外国人住民）

ただし、住民基本台帳法の改正（平成24年7月9日）前の登録人口は、住民基本台帳人口（日本人住民）と外国人登録人口の合計となります。

- ・ 人口増加数＝自然増加数＋社会増加数
- ・ 自然増加数＝出生数－死亡数
- ・ 社会増加数＝転入数－転出数＋その他の増加数（職権記載・消除、国籍取得・喪失、転出取消等）

## 解 説

### I 登録人口（日本人住民＋外国人住民）による人口動向

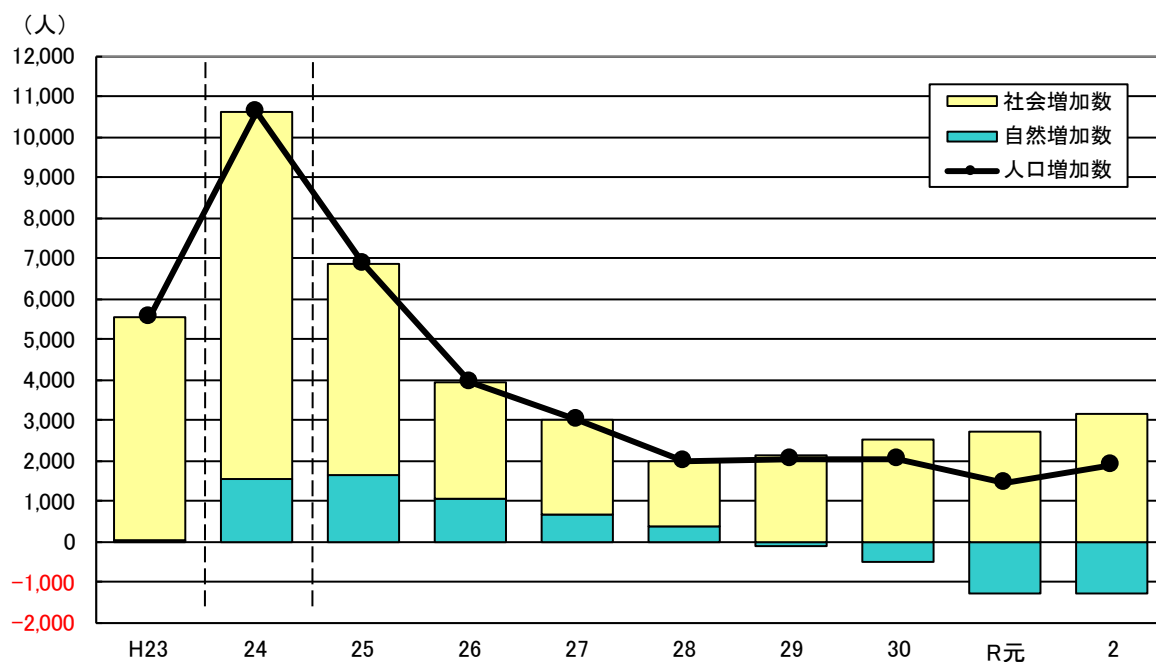
#### 1 概 要

令和2年末の登録人口は106万5,932人でした。

また、令和2年1年間の人口増加数は1,872人となり、前年の人口増加数1,475人に比べ397人の増加となっています。その内訳は、自然増加数が△1,288人（対前年18人の減少）、社会増加数が3,160人（対前年415人の増加）となりました。

（図1、表1、統計表第1表）

図1 人口増加数の推移（平成23年～令和2年）



住民基本台帳(日本人)+外国人登録(外国人)

住民基本台帳(日本人+外国人)

H24.7.9「住民基本台帳法の一部を改正する法律」の施行

表1 登録人口の推移－全市、区（平成27年～令和2年）

各年末（単位：人）

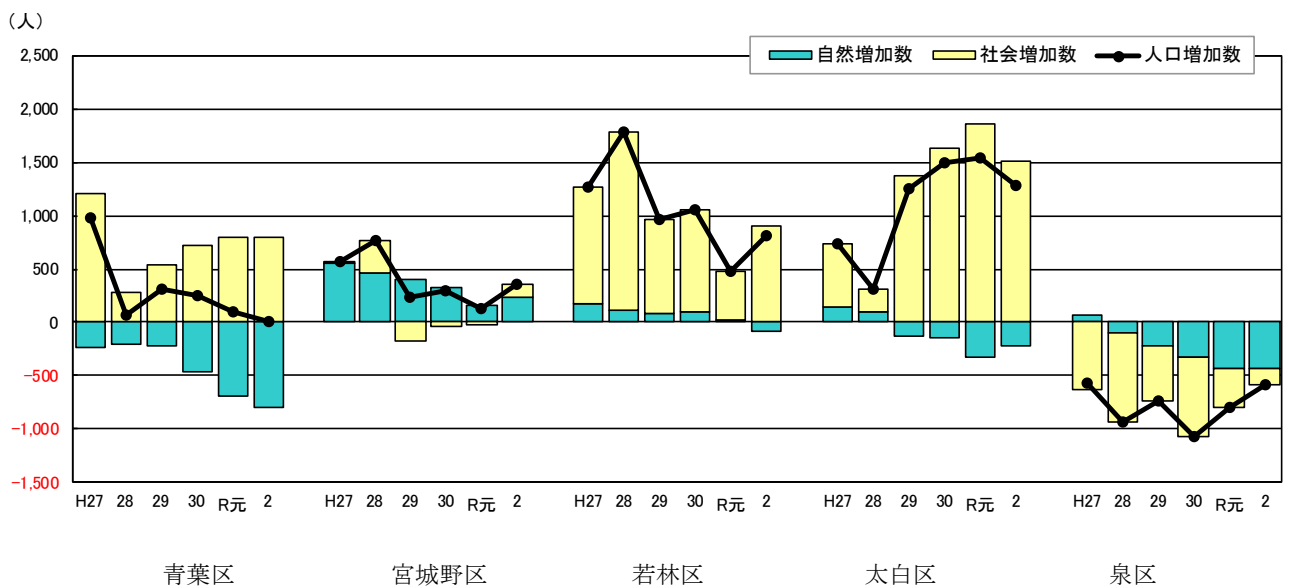
年次	仙台市	青葉区	うち 宮城総合 支所	宮城野区	若林区	太白区	うち 秋保総合 支所	泉区
平成27年	1,056,503	292,262	73,176	188,770	132,161	226,745	4,222	216,565
28	1,058,517	292,335	73,575	189,543	133,954	227,059	4,210	215,626
29	1,060,545	292,649	73,856	189,777	134,919	228,310	4,130	214,890
30	1,062,585	292,897	74,309	190,079	135,980	229,806	4,107	213,823
令和元年	1,064,060	292,998	74,365	190,215	136,465	231,353	4,059	213,029
2	1,065,932	293,003	74,642	190,567	137,281	232,642	3,978	212,439

区別の動向をみると、青葉区、宮城野区、若林区、太白区において人口が増加しており、前年の人口増加数を上回ったのは宮城野区、若林区、泉区でした。

人口増加数が最も多かったのは太白区の1,289人（自然増加数△220人、社会増加数1,509人）で、以下、若林区の816人（自然増加数△82人、社会増加数898人）、宮城野区の352人（自然増加数241人、社会増加数111人）、青葉区の5人（自然増加数△800人、社会増加数805人）、泉区の△590人（自然増加数△427人、社会増加数△163人）でした。

（図2、表1、統計表第1表）

図2 人口増加数の推移一区（平成27年～令和2年）



## 2 自然動態

令和2年の出生数は前年より59人増加して7,920人、死亡数は前年より77人増加して9,208人となったことから、自然増加数は△1,288人となり、前年の△1,270人に比べ18人減少しました。前年に引き続き、自然増加数は減少しています。また、死亡数は8年連続で増加しました。

（図3、統計表第1表）

区別の動向をみると、出生数は若林区を除いた4区で前年より増加し、死亡数は青葉区と若林区で前年より増加しました。

自然増加数が最も多かったのは宮城野区の241人（出生数1,694人、死亡数1,453人）で、以下、若林区の△82人（出生数1,108人、死亡数1,190人）、太白区の△220人（出生数1,886人、死亡数2,106人）、泉区の△427人（出生数1,316人、死亡数1,743人）、青葉区の△800人（出生数1,916人、死亡数2,716人）でした。

（図4、統計表第1表）

図3 自然動態の推移—全市（平成23年～令和2年）

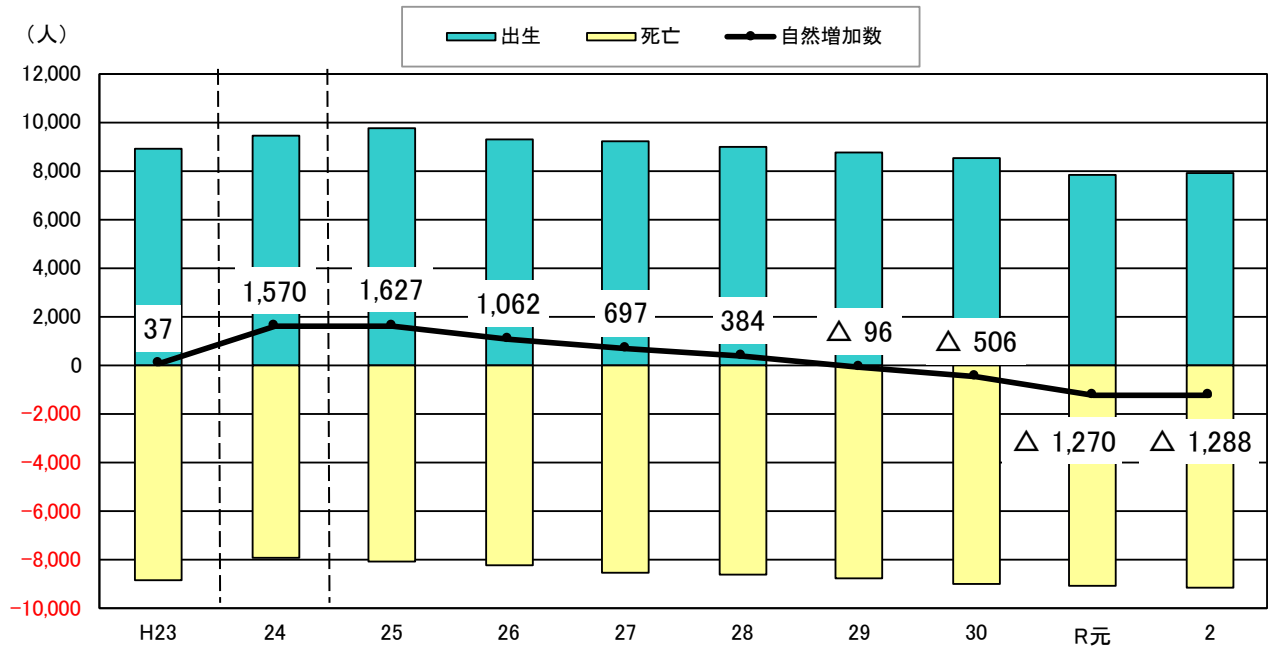
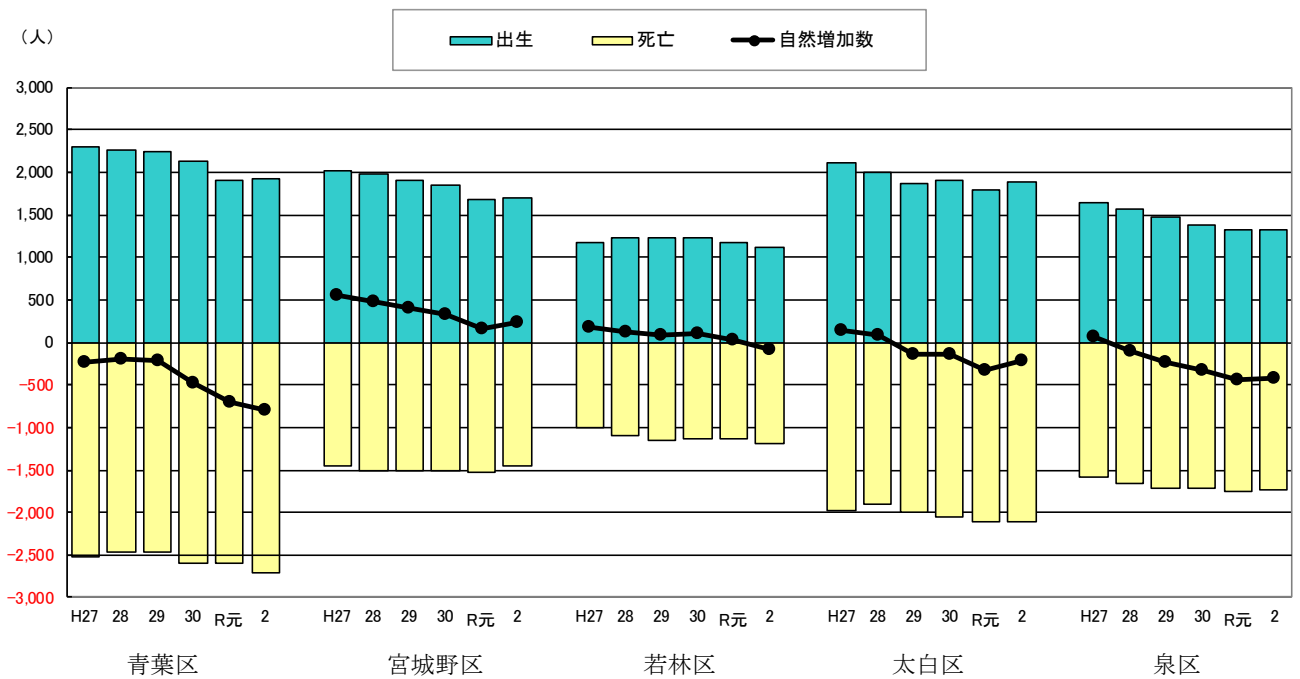


図4 自然動態の推移—区（平成27年～令和2年）



### 3 社会動態（区間移動含む）

令和2年の転入数は6万6,034人で前年より1,728人の減少、転出数は6万2,881人と前年より1,931人の減少、この結果、転入・転出数の差にその他増加数7人を加えた社会増加数は3,160人となりました。

区別の動向をみると、青葉区、若林区、太白区で県内移動、県外・国外との移動がともに転入超過となりました。宮城野区では県内移動が転出超過、県外・国外との移動が転入超過となりました。泉区では県内移動、県外・国外との移動がともに転出超過となりました。

社会増加数が最も多かったのは太白区の1,509人（転入数1万3,219人、転出数1万1,747人、その他増加数37人）で、以下、若林区の898人（転入9,521人、転出数8,685人、その他増加数62人）、青葉区の805人（転入数1万9,945人、転出数1万9,074人、その他増加数△66人）、宮城野区の111人（転入数1万3,282人、転出数1万3,120人、その他増加数△51人）、泉区の△163人（転入数1万67人、転出数1万255人、その他増加数25人）でした。

（図5、統計表第1表）

図5 社会増加数の推移—全市、区（平成27年～令和2年）

